

# 四ツ倉駅周辺の今後のまちづくりに向けたアンケート調査

## 【概要版】

### 1. 調査概要

#### 1.1. 目的

「四倉地区まちづくり検討会」における計画素案に対する住民の意向を把握するため、四倉地区に居住する住民（500名）を対象に実施したもの。

#### 1.2. 概要

調査期間：令和3年1月8日（金）～29日（金）

調査対象：地区に居住する20歳以上の男女500名（住民基本台帳から男女別・年齢階層別に無作為抽出）

調査方法：郵送による配布回収

回収率：約44%（回収票220／配布票500）

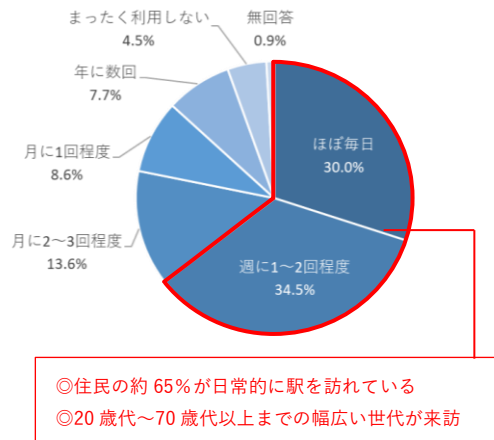
### 2. アンケート調査結果

#### 2.1. 四ツ倉駅周辺の利用状況や印象について

##### 2.1.1. 四ツ倉駅周辺を訪れる頻度

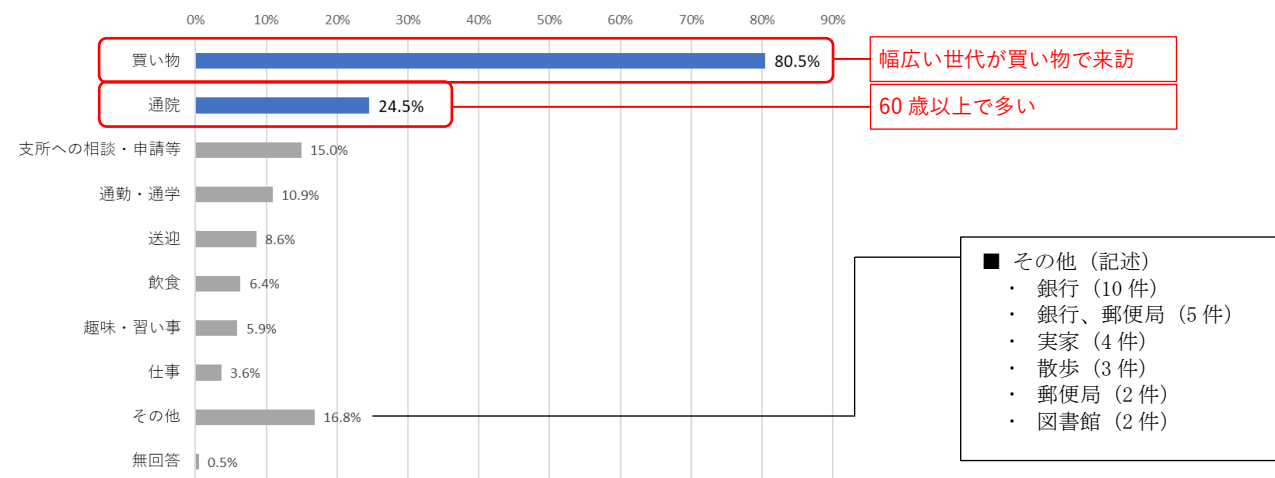
「ほぼ毎日」が約30%、「週に1～2回程度」が34.5%と駅周辺を日常的に訪れる住民は約65%となっており、**四ツ倉駅周辺の来訪頻度は高い**ことがわかる。

また、年齢別にみても、**20歳代～70歳代以上までの幅広い世代が日常的に訪れている**ことがわかる。



##### 2.1.2. 四ツ倉駅周辺を訪れる主な目的（3つまでの回答）

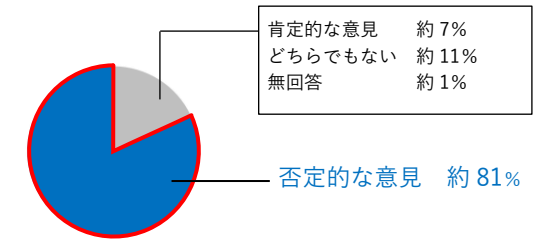
「買い物」が80.5%で最も多く、次いで「通院」が24.5%となっている。「買い物」は、20歳代～70歳代以上の幅広い世代で主な目的とされており、「通院」では主に60歳代と70歳代以上の住民が目的としている。



#### 2.1.3. 現状の四ツ倉駅周辺についての印象

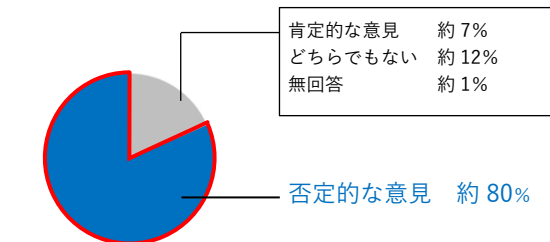
##### ① 駅前に誰でも集まりやすい場所（空間）がある

否定的な意見（「どちらかといえば思わない」と「思わない」）が約81%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。このことから、駅前の空間や土地が有効に活用されていない状況が伺える。



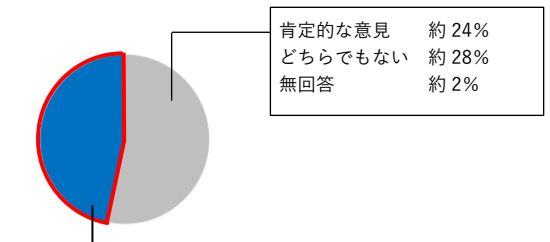
##### ② 市内外から人が訪れ、楽しめるような魅力的な場所がある

否定的な意見が約80%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。このことから、気軽に休憩できたり、余暇を過ごせる施設やサービスが不足していることが伺える。



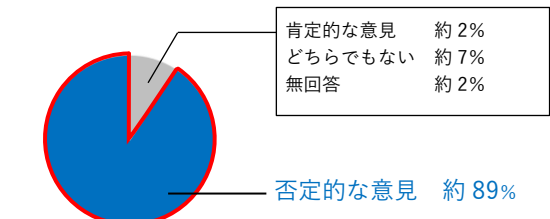
##### ③ 公民館や図書館などの公共施設は行きやすい場所にある

否定的な意見が約46%、「どちらとも言えない」が約28%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。このことから、公共施設へのアクセスが十分ではない状況が伺える。



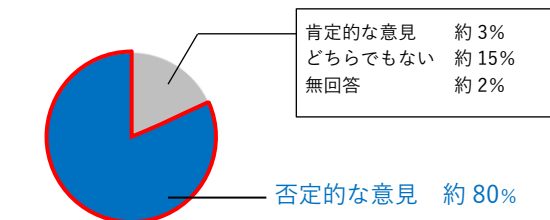
##### ④ 商店街に賑わいや活気がある

否定的な意見が約89%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で否定的な傾向が強い。このことから、若い世代をターゲットにした店舗の誘導（新規出店や空き店舗等の活用）などが求められている。



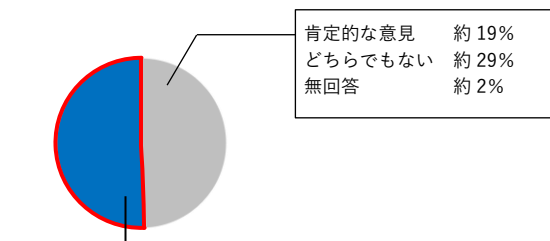
##### ⑤ イベントが多く、賑わいがある

否定的な意見が約80%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で否定的な傾向が強い。このことから、若い世代を巻き込んだイベント等の開催により、まちの賑わいが感じられる取り組みが求められている。



##### ⑥ 安心して歩ける空間がある

否定的な意見が約50%、「どちらとも言えない」が約29%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。地区内には、歩道が整備されていない道路もあるため、安全な道路空間の整備が求められている。

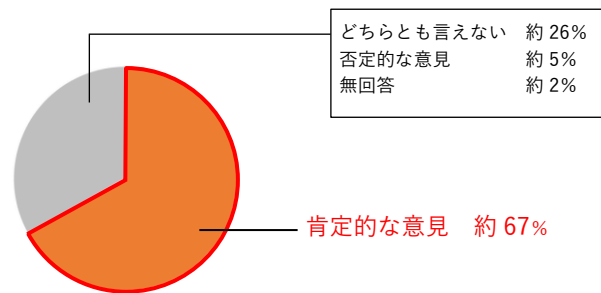


## 2.2. 四倉地区まちづくり検討会の計画素案（基本目標や方針、取組み）について

### 【基本目標】モデル的教育・文化施設の立地と安全・安心な空間整備による拠点性の向上

肯定的な意見（「望ましい」と「おおむね望ましい」）が約67%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で肯定的な傾向が強い。

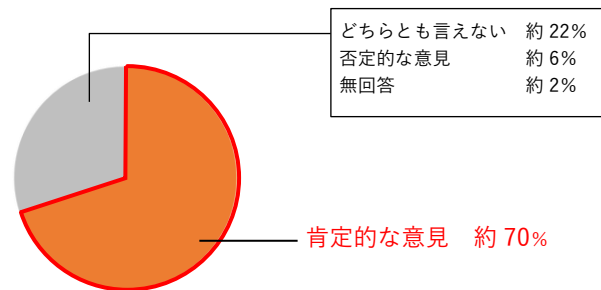
一方、「あまり望ましくない」または「望ましくない」を選択した理由として、「目標が難しく理解できない」「モデル的教育の意味や意図がよくわからない」といった記述があったため、基本目標の再設定が必要である。



### 【整備方針①】教育・文化・福祉機能を有する交流・防災拠点の整備

肯定的な意見が約70%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で肯定的な傾向が強い。

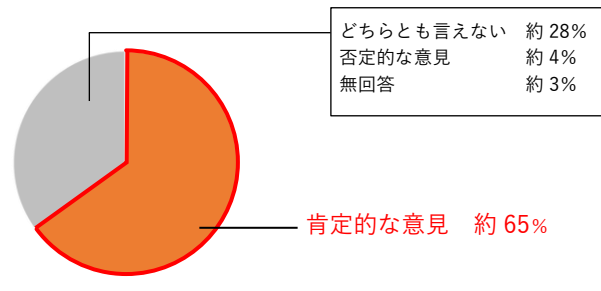
一方、「あまり望ましくない」または「望ましくない」を選択した理由として、「セメント工場跡地に建物をおくことが目的に思える」といった記述があったため、現状や課題を踏まえながら、地区にとってふさわしい市街地再生の目標や方針の設定が必要である。



### 【整備方針②】民間活力の導入によるにぎわい拠点の形成

肯定的な意見が約65%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。

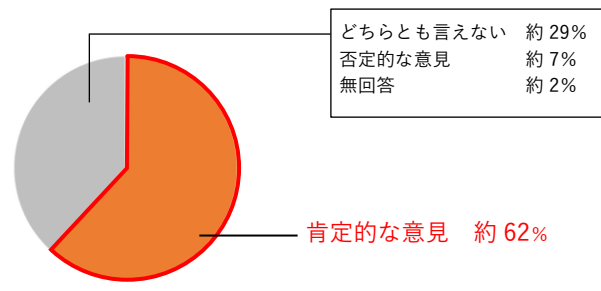
一方、「あまり望ましくない」または「望ましくない」を選択した理由として、「具体的でないためわかりにくい」といった記述があったため、引き続き、民間活力の検討を進めながら、早い段階からの地域への情報提供や民間活力に向けた機運醸成を図る必要がある。



### 【整備方針③】商店街のにぎわい再生

肯定的な意見が約62%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で肯定的な傾向が強い。

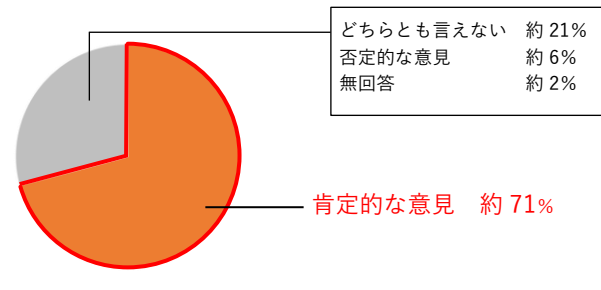
一方、「あまり望ましくない」または「望ましくない」を選択した理由として、「やっても人が集まらない」「事業をやるスペースがない」といった記述があったため、地域の関係団体と、にぎわい再生に向けた取り組みの方向性等について整理・共有を行う必要がある。



### 【整備方針④】安全な道路空間の整備

肯定的な意見が約71%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。

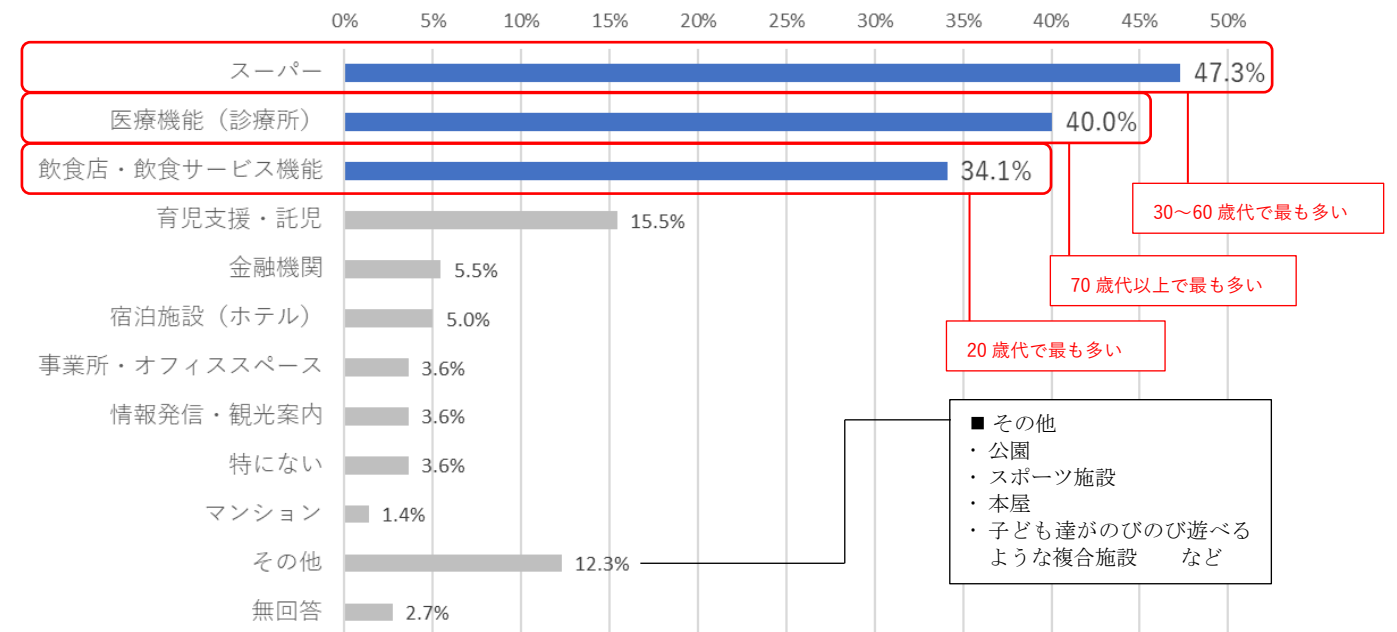
一方、「あまり望ましくない」または「望ましくない」を選択した理由として、「人がほぼ歩かない」「近辺に住ん



でいる人の住居はどうなるのか」といった記述があったため、将来交通量（開発交通量含む）の設定や権利者の意向調査を踏まえ、地域の実情にあった道路整備を進めていく必要がある。

## 2.3. 住友大阪セメント工場跡地について、交流・防災拠点のほか、必要だと思う機能（2つまでの回答）

「スーパー」が47.3%で最も多く、次いで「医療機能（診療所）」が40.0%、「飲食店・飲食サービス機能」が34.1%となっている。年齢別にみると20歳代では「飲食店・飲食サービス機能」、30歳代～60歳代では「スーパー」、70歳代以上は「医療機能（診療所）」が最も多くなっている。



## 2.4. 主な自由意見

### 【市街地再生全体に関する意見】

- ・子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人々が安心して楽しく過ごすことが出来るエリアにしてほしい。
- ・老若男女が行きたくなる施設やまちづくりをもっと積極的に行ってほしい。
- ・まちが将来に渡って存続するためには、若い子育て世代が暮らしたいと思える環境づくりが必要。
- ・スーパーや飲食店、フィットネス（運動施設）、公園などが充実した、魅力的な場所になってほしい。

### 【交流・防災拠点に関する意見】

- ・住友大阪セメント工場跡地に、幼稚園、小学校、中学校をまとめて建設してはどうか。
- ・中学校を津波の心配が少ない安全な場所へ移転してほしい。
- ・駅を中心に公共交通機関の便が良い所に、図書館と公民館を移転し、複合的な文化施設をつかってほしい。
- ・交流拠点には子連れでも行きたいと思える、緑がたくさんある広場や公園も整備してほしい。

### 【民間施設に関する意見】

- ・駅西側に子連れでも安心していける、スーパー（ヨークベニマル）や飲食店があるよい。
- ・中学校が移転した跡地に、大型ショッピングモール等を誘致できればよいのではないか。

【商店街に関する意見】

- ・商店の経営者の方にも魅力ある商店街にするための話し合いを持ってほしい。
- ・商店街にカフェなどができると、散歩のついでに立ち寄って休憩もできそう。
- ・道路の路側ないし道路隣接地へのベンチの設置はどうか（休憩やおしゃべりの場の設置で歩行空間の質を高められるのではないか）。
- ・空き家を居住・移住希望者に安く活用できないか。

【道路整備に関する意見】

- ・道路を最優先に整備してほしい。特に、子ども達が通学する道路を優先的に整備してほしい。
- ・市道梅ヶ丘1号線は歩道もなく狭い。西側に拠点施設が出来ると、交通量が増えて、子ども達が心配。

【その他】

- ・海を活かして、この町に住みたいと思うような町にしてほしい。
- ・夜は街灯が少ないため、安心して歩けないので、防犯上のためにも街灯を増やしてほしい。